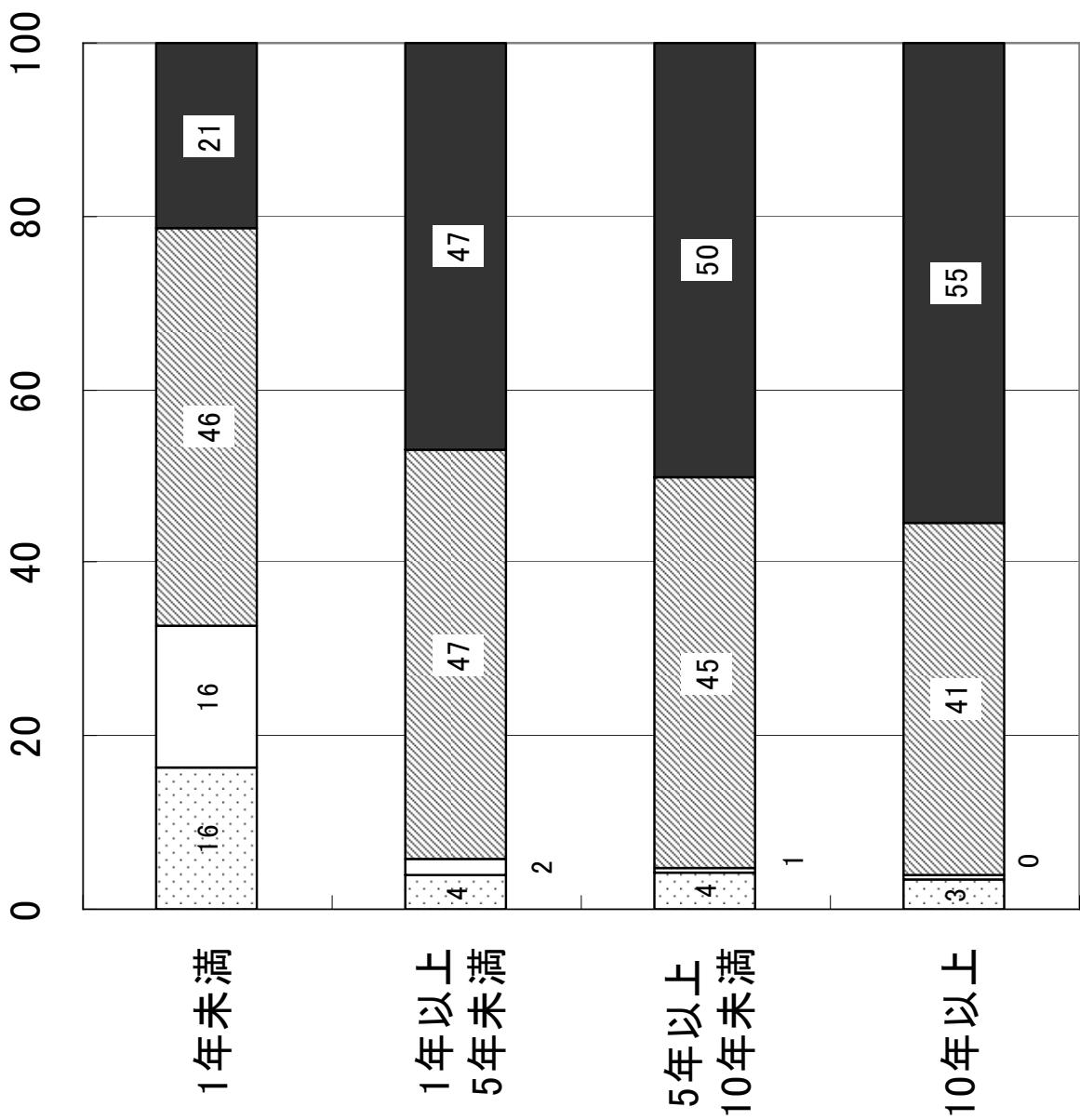
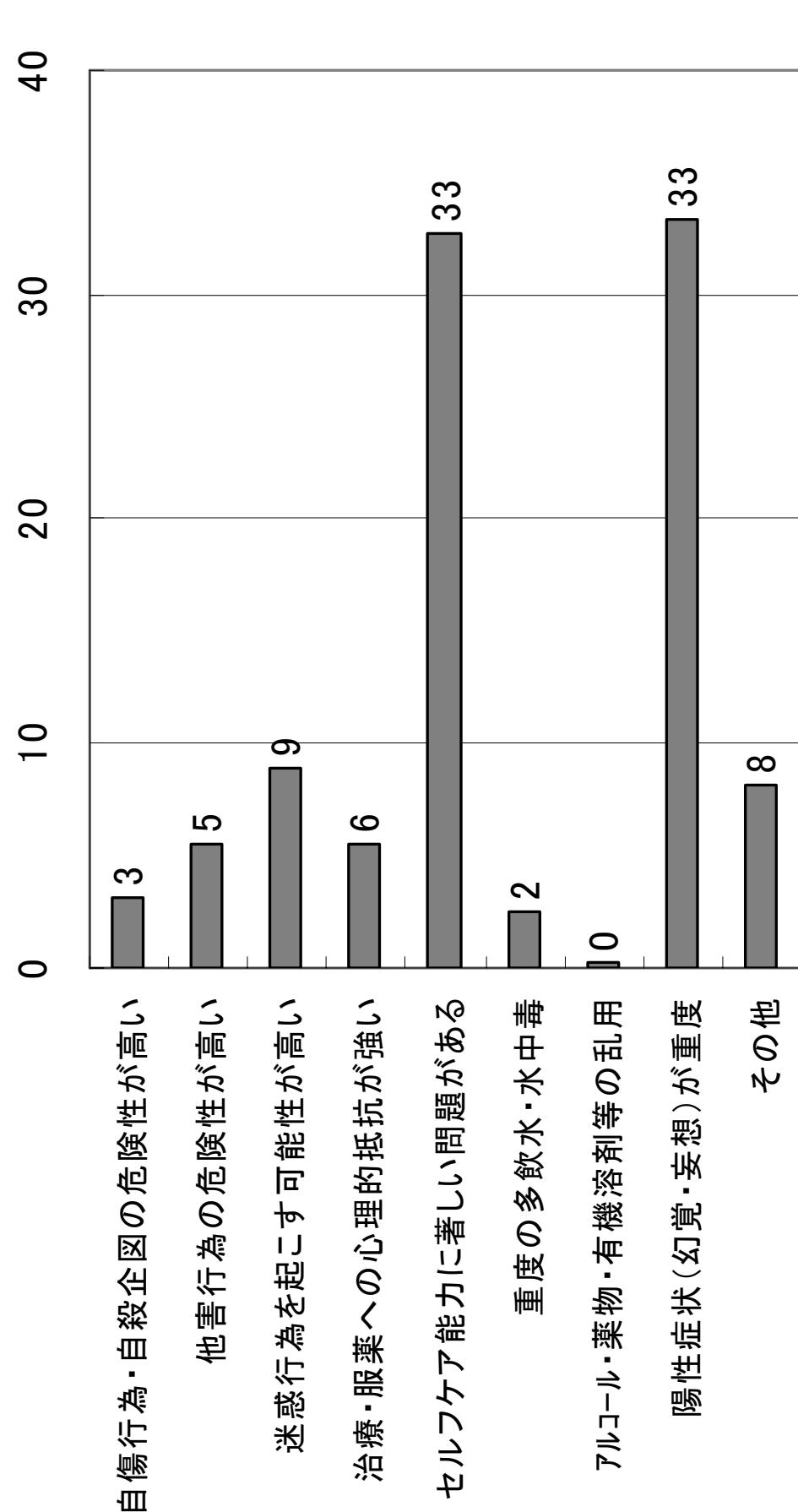


3 統合失調症で、「近い将来退院の可能性なし」とされた患者像について

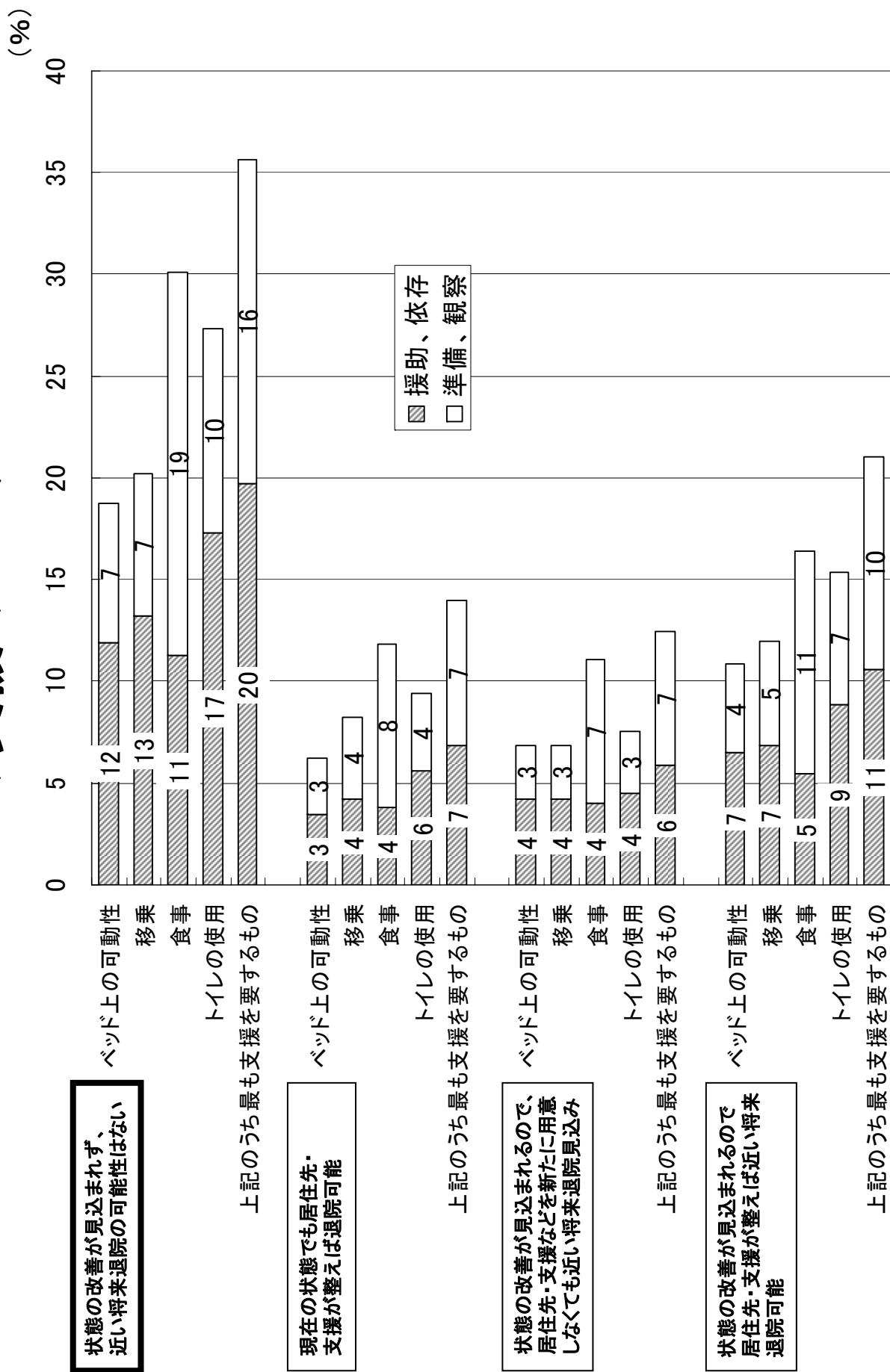
入院患者者の状況・退院の可能性（入院期間別）



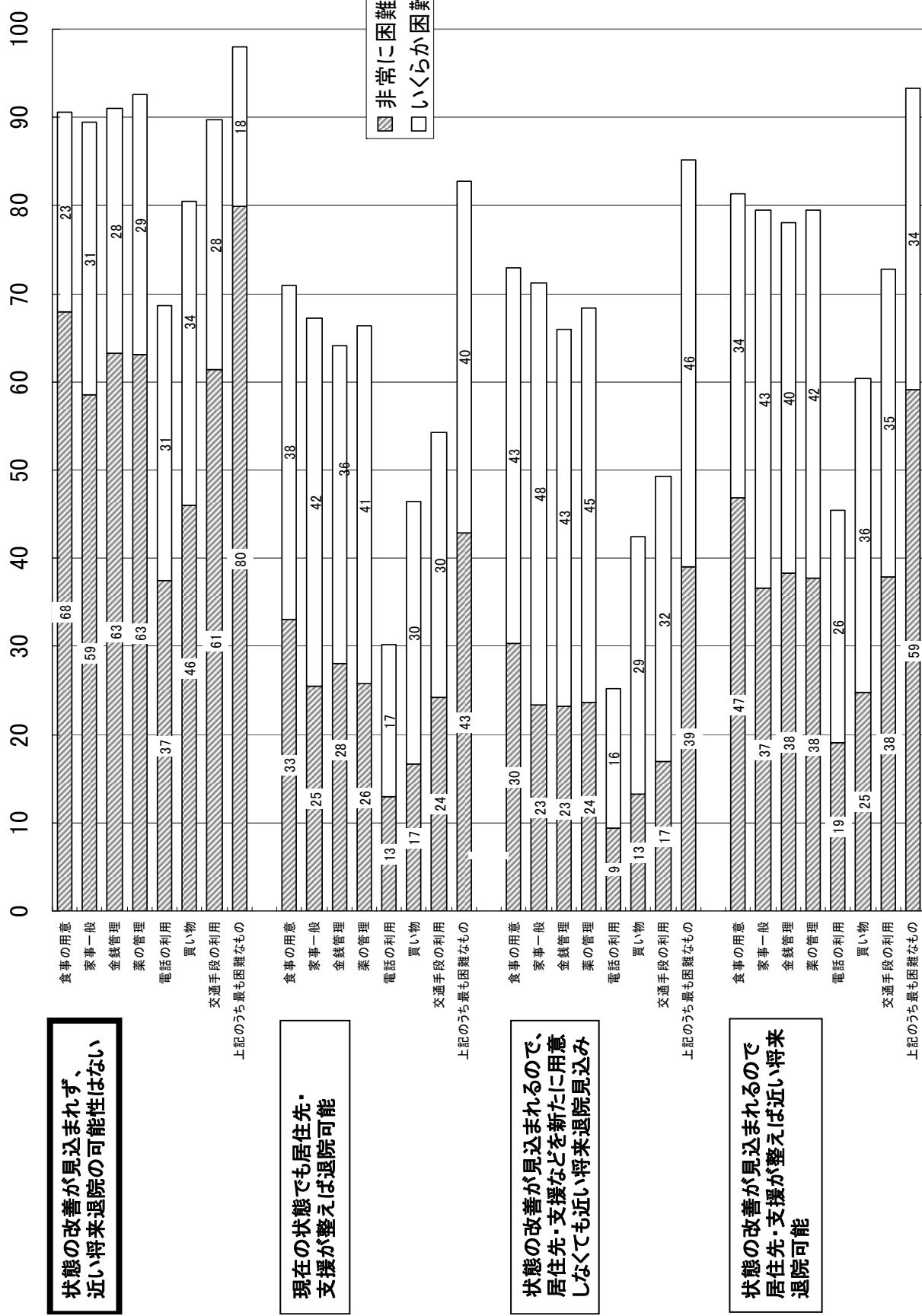
「近い将来退院の可能性はない」患者の 退院できない理由



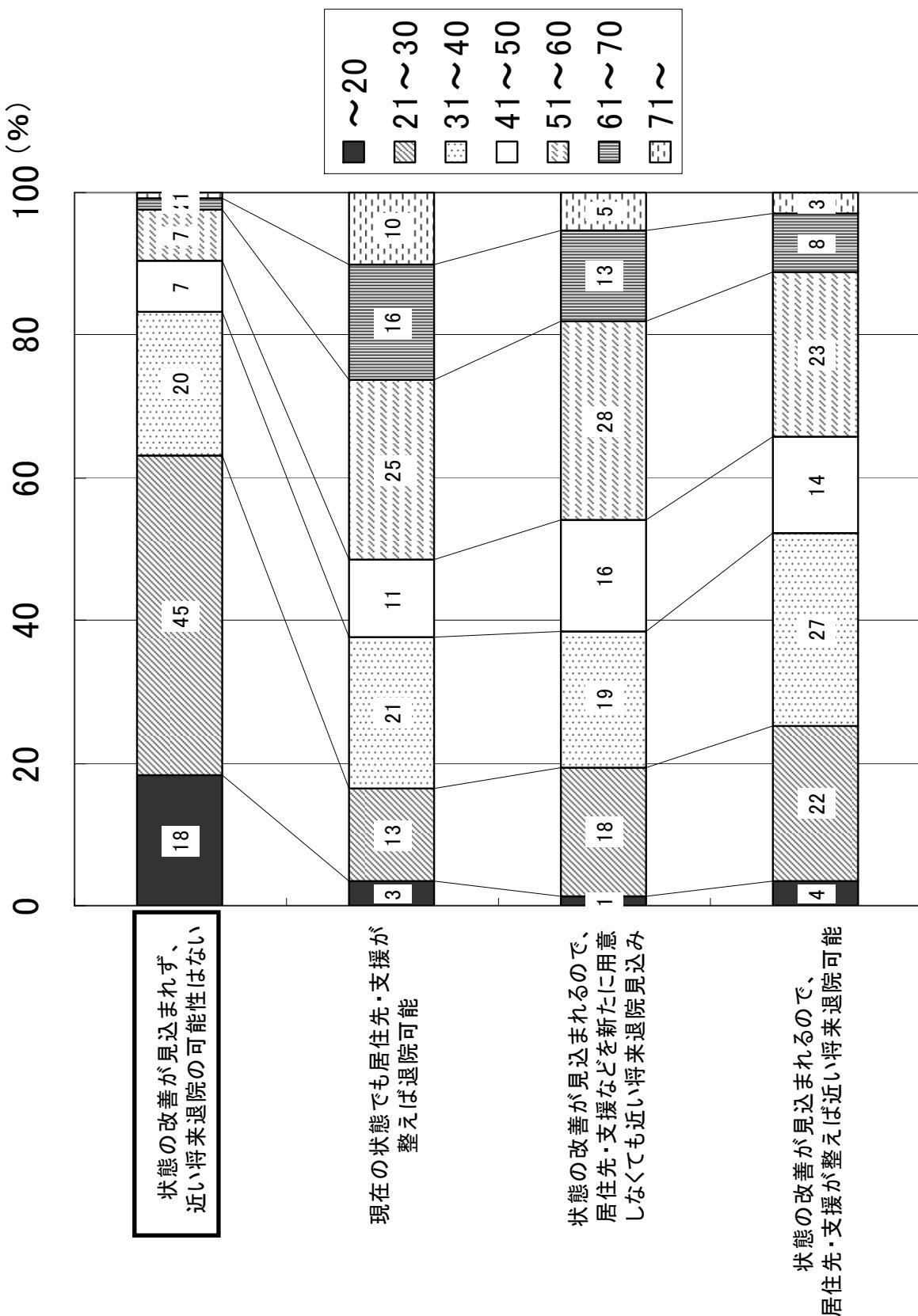
ADLの支援のレベル



ADLの困難度



GAF(機能の全体的評定尺度)評点



問27 居住先・支援が整った場合の退院の可能性

	全体		F0抜き		F0		割合		F20	
	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能	1,585	9.0	1,328	9.4	257	7.4	659	6.5		
状態の改善が見込まれるので、居住先・支援などを新たに用意しなくても近い将来退院見込み	1,015	5.8	919	6.5	96	2.8	426	4.2		
状態の改善が見込まれるので、居住先・支援が整えば近い将来退院可能	8,019	45.6	6,272	44.4	1,747	50.5	4,491	44.3		
状態の改善が見込まれず、近い将来退院の可能性はない	6,959	39.6	5,601	39.7	1,358	39.3	4,564	45.0		
計	17,578	100.0	14,120	100.0	3,458	100.0	10,140	100.0		

以下は、F20(統合失調症)の患者のみに関する集計

問27付問 「可能性はない」患者の退院できなし理由

F20のうち 「退院の可能性なし」	(%)	
	自傷行為・自殺企図の危険性が高い	3.2
他害行為の危険性が高い		5.5
迷惑行為を起こす可能性が高し		8.9
治療・服薬への心理的抵抗が強い		5.5
セルフケア能力に著しい問題がある		32.7
重度の多飲水・水中毒		2.5
アルコール・薬物・有機溶剤等の乱用		0.3
陽性症状(幻覚・妄想)が重度		33.4
その他		8.1
計		100.0

<有効回答数>

問27 入院患者の状況(入院期間別)

割合(%)	人数(人)					合計
	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	合計	
現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能	16.4	4.0	4.2	3.5	6.5	356
状態の改善が見込まれるので、居住先・支援などを新たに用意しなくても近い将来退院見込み	16.4	1.7	0.7	0.4	4.2	356
状態の改善が見込まれるので、居住先・支援が整えば近い将来退院可能	45.9	47.3	45.0	40.8	44.3	995
状態の改善が見込まれず、近い将来退院の可能性はない	21.3	47.0	50.2	55.3	45.0	463
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	2,170
						2,640
						1,647
						3,660
						10,117

問8-1 過去3日間の日常生活動作(ADL)支援レベル

(参考)

現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能	
状態の改善が見込まれず、近い将来退院の不可能性はない	
自立	81.2 <4.557>
ベッド上の可動性	6.8 <4.557>
移乗	91.8 <4.557>
食事	79.8 <4.557>
トイレの使用	13.2 <4.557>
上記のうち最も支援を要するもの	11.9 <4.557>
上記のうち最も困難なものの割合(%)	11.9 <4.557>

状態の改善が見込まれるので、居住先・支援が整えば近い将来退院見込み	
状態の改善が見込まれないので、居住先・支援が整えば近い将来退院見込み	
自立	93.2 <4.487>
準備、観察	2.6 <4.487>
援助、依存	4.2 <4.487>
自立	93.2 <4.485>
準備、観察	2.6 <4.485>
援助、依存	5.1 <4.485>
自立	88.9 <4.486>
準備、観察	7.1 <4.486>
援助、依存	5.5 <4.486>
自立	92.5 <4.483>
準備、観察	3.1 <4.483>
援助、依存	4.5 <4.483>
自立	84.6 <4.483>
準備、観察	6.5 <4.483>
援助、依存	8.9 <4.483>
自立	79.0 <4.488>
準備、観察	10.5 <4.488>
援助、依存	10.6 <4.488>

問9 IADL(手段的日常生活動作)各項目の困難度

(参考)

現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能	
状態の改善が見込まれず、近い将来退院の不可能性はない	
問題ない(いらか困難)	29.0 <4.556>
問題ない(非常に困難)	38.0 <4.556>
問題ない(いらか困難)	32.8 <4.553>
問題ない(いらか困難)	35.9 <4.551>
問題ない(いらか困難)	33.7 <4.551>
問題ない(いらか困難)	7.5 <4.553>
問題ない(いらか困難)	31.3 <4.553>
問題ない(いらか困難)	19.5 <4.552>
問題ない(いらか困難)	10.2 <4.550>
問題ない(いらか困難)	2.1 <4.557>
問題なし(非常に困難)	22.7 <4.556>
問題なし(非常に困難)	10.6 <4.553>
問題なし(非常に困難)	8.9 <4.551>
問題なし(非常に困難)	7.5 <4.553>
問題なし(非常に困難)	31.3 <4.553>
問題なし(非常に困難)	19.5 <4.552>
問題なし(非常に困難)	10.2 <4.550>
問題なし(非常に困難)	2.1 <4.557>
問題あり(非常に困難)	68.0 <4.556>
問題あり(非常に困難)	58.5 <4.553>
問題あり(非常に困難)	63.2 <4.551>
問題あり(非常に困難)	63.1 <4.551>
問題あり(非常に困難)	58.3 <4.553>
問題あり(非常に困難)	17.2 <4.553>
問題あり(非常に困難)	16.7 <4.552>
問題あり(非常に困難)	61.4 <4.550>
問題あり(非常に困難)	18.0 <4.557>
問題あり(非常に困難)	79.9 <4.557>
問題あり(非常に困難)	40.0 <4.557>
問題あり(非常に困難)	42.9 <4.557>
問題あり(非常に困難)	39.1 <4.557>
問題あり(非常に困難)	34.2 <4.557>
問題あり(非常に困難)	37.8 <4.557>
問題あり(非常に困難)	35.6 <4.557>
問題あり(非常に困難)	32.3 <4.557>
問題あり(非常に困難)	17.0 <4.557>
問題あり(非常に困難)	39.1 <4.557>
問題あり(非常に困難)	34.2 <4.557>
問題あり(非常に困難)	37.8 <4.557>
問題あり(非常に困難)	35.6 <4.557>
問題あり(非常に困難)	24.8 <4.557>
問題あり(非常に困難)	13.2 <4.557>
問題あり(非常に困難)	12.9 <4.557>
問題あり(非常に困難)	17.2 <4.557>
問題あり(非常に困難)	16.7 <4.557>
問題あり(非常に困難)	46.1 <4.557>
問題あり(非常に困難)	42.9 <4.557>
問題あり(非常に困難)	39.1 <4.557>

問15 身体合併症

(参考)

現在の状態でも居住先・支援が整えば退院可能	
状態の改善が見込まれず、近い将来退院の不可能性はない	
なし	70.8 <4.384>
なし	56.5 <4.384>
なし	30.1 <4.384>
なし	13.4 <4.384>
なし	71.9 <4.283>
なし	19.5 <4.283>
なし	8.6 <4.283>
なし	8.6 <4.283>
なし	31.0 <4.283>
なし	8.5 <4.283>
なし	60.5 <4.283>

問16 GAF(機能の全体的評定尺度)評点
(参考)

状態の改善が見込まれず、近い将来退院の可能性はない、		現在の状態でも居住先・支援が整えれば退院可能	
		状態の改善が見込まれるまでの、居住先・支援などを新たに用意しなくてよい将来退院見込み能	
0	0.7	0.8	0.5
~10	4.0	0.6	0.9
11~20	13.6	2.1	2.4
21~30	44.7	12.9	17.8
31~40	20.4	21.4	19.2
41~50	7.1	10.8	15.7
51~60	7.2	25.2	27.7
61~70	1.6	16.1	12.7
71~80	0.4	7.1	4.7
81~90	0.3	2.9	0.5
91~100	0.0	0.2	0.0
計	100.0	100.0	100.0
<有効回答数>	<4,546>	<659>	<426>
			<4,472>

問18 精神症状

状態の改善が見込まれず、近い将来退院の可能性はない、		現在の状態でも居住先・支援が整えれば退院可能	
		状態の改善が見込まれるまでの、居住先・支援などを新たに用意しなくてよい将来退院見込み能	
精神症状1	0.5	6.5	2.1
精神症状2	2.5	21.5	17.6
精神症状3	10.7	37.4	35.0
精神症状4	35.4	25.1	31.5
精神症状5	38.5	7.6	12.4
精神症状6	12.4	1.8	1.4
計	100.0	100.0	100.0
<有効回答数>	<4,559>	<657>	<426>
			<4,489>

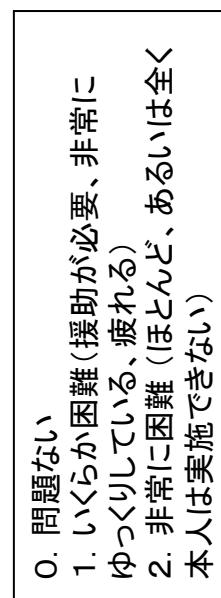
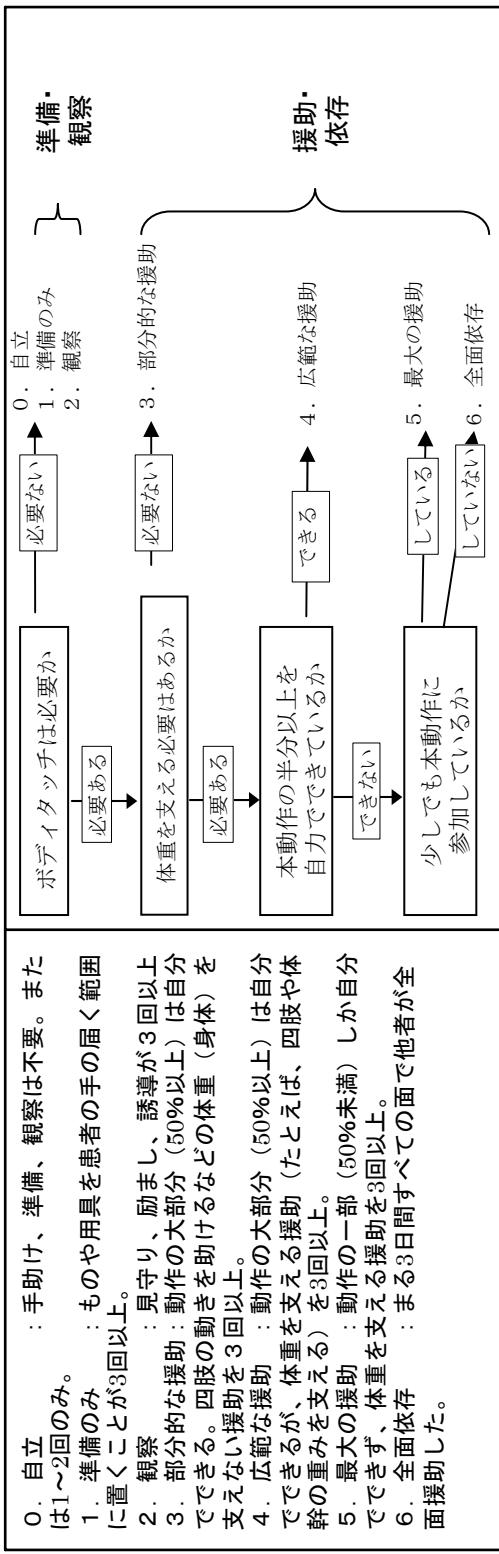
結果のまとめ

統合失調症による入院患者について、

- 「近い将来退院の可能性がない」と評価された患者は約45%で、特に入院期間が長いほど、その割合が高くなる傾向があった。
- 退院できない理由としては、「重度の陽性症状」、「セルフケア能力の著しい問題」が多く、それぞれ約3分の1であった。また、迷惑行為の可能性、自傷・他害の可能性が高いこと、治療・服薬への心理的抵抗、水中毒などとする回答があった。
- また、「近い将来退院の可能性がない」と評価された患者では、ADL、IADLの障害を有する者や、身体合併症を有する者の割合が高く、GAFや精神症状も重症度が高い傾向にあった。

<参考：調査要領（抄）> ※問8 ADLへの支援のレベル

a.ベッド上の可動性	横になった状態からどのように動くか、寝返りをうつたり、起き上がりがつたり、ベッド上の身体の位置を調整する
b.移乗	ベッドからどのように、いすや車いすに座ったり、立ち上がるか、（浴槽や便座への移乗は除く）
c.食事	どのように食べたり、飲んだりするか（上手、下手に関係なく）経管や経静脈栄養も含む
d.トイレの使用	どのようにトイレ（ポータブルトイレ、便器、尿器を含む）を使用するか。排泄後の始末、おむつの替え、人工肛門またはカテーテルの管理、衣服を整える（移乗は除く）



※問9 IADLの困難度

- a.食事の用意 (歛立を考える、材料を用意する、料理する、配膳する)
- b.家事一般 (食事の後片付け、掃除、布団・ベッドの整理、家の中の整頓、洗濯など)
- c.金銭管理 (請求書の支払い、貯金の管理、家計の収支勘定)
- d.薬の管理 (服用の時間、袋からの取り出し、処方通りの服用)
- e.電話の利用 (自分で電話をかけたり、受けたり)
- f.買い物 (食べ物や衣類など必要な物を自分で選び、支払う)
- g.交通手段の利用 (バス・電車などの乗り物による移動)

※問16 機能の全体的評定(GAF)尺度

- 精神的・病気という1つの仮想的な連続体に沿って、心理的、社会的、職業的機能を考慮。
- 身体的（または環境的）制約による機能の障害を含めないこと。
- 点数（注：例えば、45、68、72のように、適切な点数で評価）

点	機能の状態
100～91	広範囲の行動にわたつて最高に機能しており、生活上の問題で手に負えないものは何もなく、その人の多數の長所があつたために他の人々から求められている。症状は何もない。
90～81	症状がまったくないか、ほんの少しだけ（例：試験前の軽い不安）、すべての面でよい機能で、広範囲の活動に興味をもつて参加し、社交的にはそつがない、生活中に大体満足し、日々のありふれた問題や心配以上のものはない（例：たまに、家族と口論する）。
80～71	症状があつたとしても、心理的・社会的ストレスに対する一過性で予期される反応である（例：家族と口論した後の集中困難）、社会的・職業的または学校の機能にごくわずかな障害以上のものはない（例：学業で一時遅れをとる）。
70～61	いくつかの軽い症状がある（例：抑うつ気分と軽い不眠）、または、社会的・職業的または学校の機能に、いくらかの困難はある（例：時にざる休みをしたり、家の金を盗んだりする）が、全般的には、機能はかなり良好であつて、有意義な対人関係もかなりある。
60～51	中等度の症状（例：感情が平板的で、会話がまわりどい、時に、恐怖発作がある）、または、社会的・職業的または学校の機能における中等度の障害（例：友達が少ない、仲間や仕事の同僚との葛藤）。
50～41	重大な症状（例：自殺の考え、強迫的儀式がひどい、しようとすると、または、社会的・職業的または学校の機能において何か重大な障害（友達がいない、仕事が続かない）。
40～31	現実検討か意思伝達にいくらかの欠陥（例：会話は時々、非論理的、あいまい、または関係性がなくなる）、または、仕事や学校、家族関係、判断、思考または気分、など多くの面での粗大な欠陥（例：抑うつ的な男が友人を避け家族を無視し、仕事ができない。子どもが年下の子どもを殴り、家で反抗的で、学校では勉強ができない）。
30～21	行動は妄想や幻覚に相当影響されている。または意思伝達か判断に粗大な欠陥がある（例：時々、減裂、ひどく不適切にふるまう、自殺の考えにどうわれている）、または、ほとんどすべての面で機能することができない（例：一日中床についている、仕事も家庭も友達もない）。
20～11	自己または他者を傷つける危険がかなりある（例：死をはつきり予期することなしに自殺企図、しばしば暴力的、躁病性興奮）、または、時には最低限の身辺の清潔維持ができるない（例：大便を塗りたくる）、または、意思伝達に粗大な欠陥（例：ひどい減裂か無言症）。
10～1	自己または他者をひどく傷つける危険が続いている（例：何度も暴力を振るう）、または最低限の身辺の清潔維持が持続的に不可能、または、死をはつきり予測した重大な自殺行為。
0	情報不十分

*問18 精神症状

- | | | | | | |
|---|--|--|---|---|---|
| 1. 症状がまったくないか、あるいはいくつかの軽い症状が認められるが日常生活の中ではほとんど目立たない程度である。 | 2. 精神症状は認められるが、安定化している。意思の伝達や現実検討も可能であり、院内の保護的環境ではリハビリ活動等に参加し、身边も自立している。通常の対人関係は保っている。 | 3. 精神症状、人格水準の低下、認知症などにより意思の伝達や現実検討にいくらかの欠陥がみられるが、概ね安定しつつあるか、または固定化されている。逸脱行動は認められない。または軽度から中等度の残遺症状がある。対人関係で困難を感じることがある。 | 4. 精神症状、人格水準の低下、認知症などにより意思の伝達が判断に欠陥がある。行動は幻覚や妄想に相当影響されているが逸脱行動は認められない。あるいは中等度から重度の残遺症状(欠陥状態、無関心、無為、自閉など)、慢性の幻覚妄想などの精神症状が遷延している。または中等度のうつ状態、そういう状態を含む。 | 5. 精神症状、人格水準の低下、認知症などにより意思の伝達に粗大な欠陥(ひどい破裂や無言症)がある。時に逸脱行動が見られることがある。または最低限の身辺の清潔維持が時に不可能であり、常に注意や見守りを必要とする。または重度のうつ状態、そういう状態を含む。 | 6. 活発な精神症状、人格水準の著しい低下、重度の認知症などにより著しい逸脱行動(自殺企図、暴力行為など)が認められ、または最低限の身辺の清潔維持が持続的に不可能であり、常時厳重な注意や見守りを要する。または重大な自傷他害行為が予測され、嚴重かつ持続的な注意を要する。
しばしば隔離なども必要となる。 |
|---|--|--|---|---|---|